

～地域に生きる～

すぎの子はつつ通信

～療育での取り組み～

No. 3
平成29年9月発行



4月から療育が始まり、もうすぐ半年が経とうとしています。お子様も、元気に療育に通っていた
だき、療育やご家庭の中で自立してできることが増えてきました。今回は、療育のなかで、お子様に
合った環境設定や少しの工夫を行うことで、お子様が自立して活動できるようになった取り組みをご
紹介します。

スケジュール

～Aくん（小1）療育での取り組みの例～



Aくんが、療育で最初に使われていたスケジュールです。活動を表す写真が、上から下に数字付きで並べられています。

この日行う活動の流れなのですが、Aくんにとっては、一度に提示されている活動の量が多く、どこに注目したらよいかわからなくなっていました。そのため、写真が提示されていても、「次は何をしたらいいの?」と、確認しないと次の活動に移動することができませんでした。



そこで、次の活動のみ提示し、それ以降の流れはめくっていくことで確認できるように工夫をしました。また、写真も赤枠で囲み、目立つようにしました。

そうすることで、次にすることに注目しやすくなり、Aくんは、大人に確認することなく、自立してスケジュールを見て次の活動に移動することができるようになりました。

歯みがき

～Bくん（年長）ご家庭での取り組みの例～



普段使っている歯磨き粉、皆さんは何気なく適量を出して使っていませんか？
でもBくんにとっては、歯磨き粉の適量がわかりませんでした。



そこで、Bくんのお母さんは、消しゴムを切ったものをハブラシの上に置き、歯磨き粉の適量の見本を作られました。

また、歯みがき粉を出すときにどこを見たらいいのか、イラストで示されました。

結果、歯みがき粉を毎回お母さんにつけてもらっていたBくんは、自立して歯みがき粉をつけることができました。

誰でもすぐに取り組める簡単な工夫で、お子様が自立できるようになった、素晴らしいアイデアですね！



最後までご覧いただきありがとうございました。今回ご紹介した取り組みはほんの一部ですが、これからも皆様が参考にさせていただけるような情報を発信していければと思います。次回もどうぞお楽しみに！